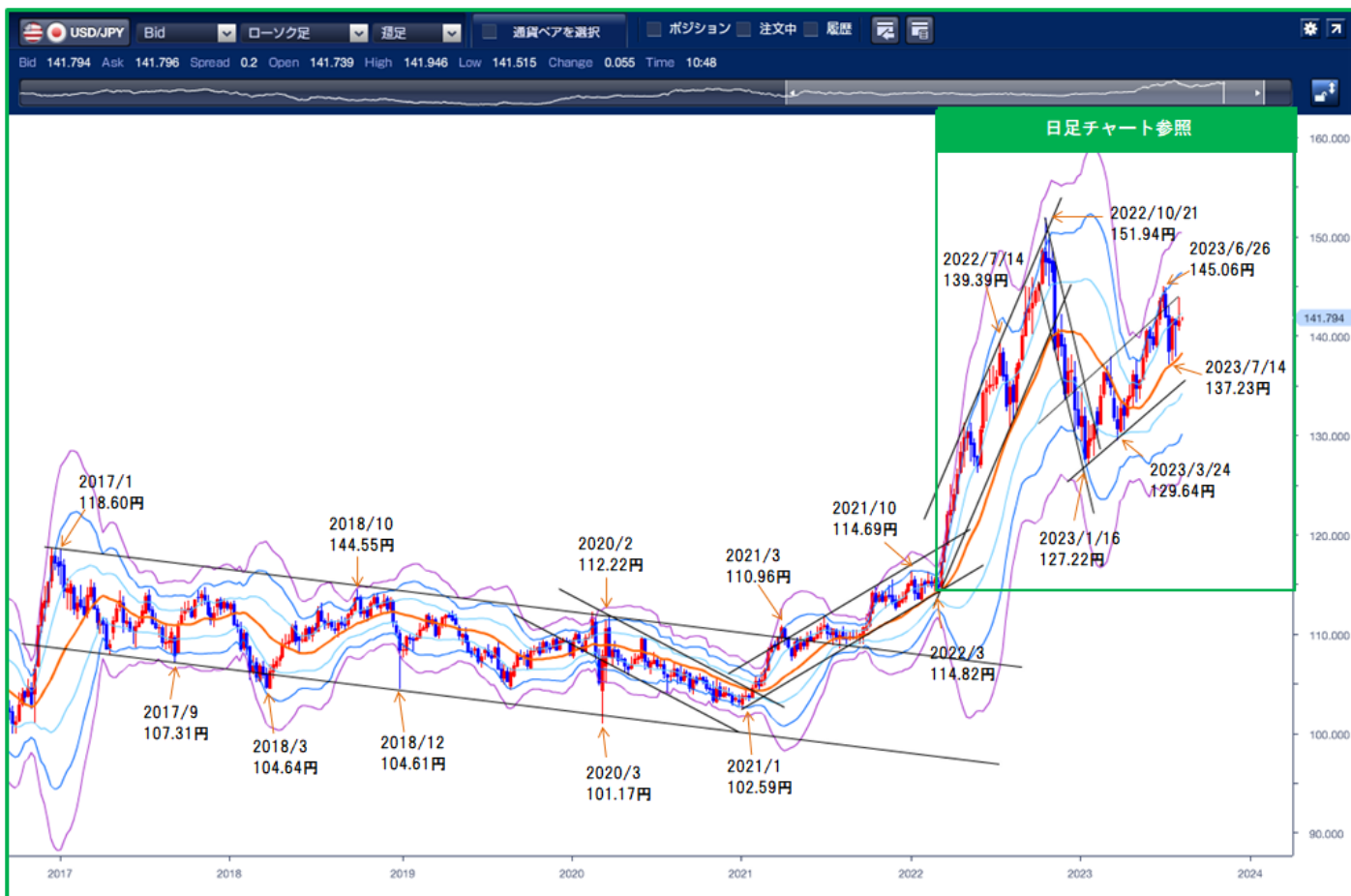


週足



長期概況

2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇後、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由として、調整の流れが強まり、127.22円(1/16)まで下落しました。その後、2月の主要な米経済指標(雇用統計やCPI)が予想を上回る結果であったことで、137.90円(3/6)まで上昇しましたが、3月中旬、欧米金融機関の経営不安に端を発した金融システム不安から、リスク回避の動きが強まり、129.64円(3/24)まで下落しました。

ただ、その後も日米金利差を背景としたドル買い円売りは根強く、再び145.06円(6/30)まで上昇しました。

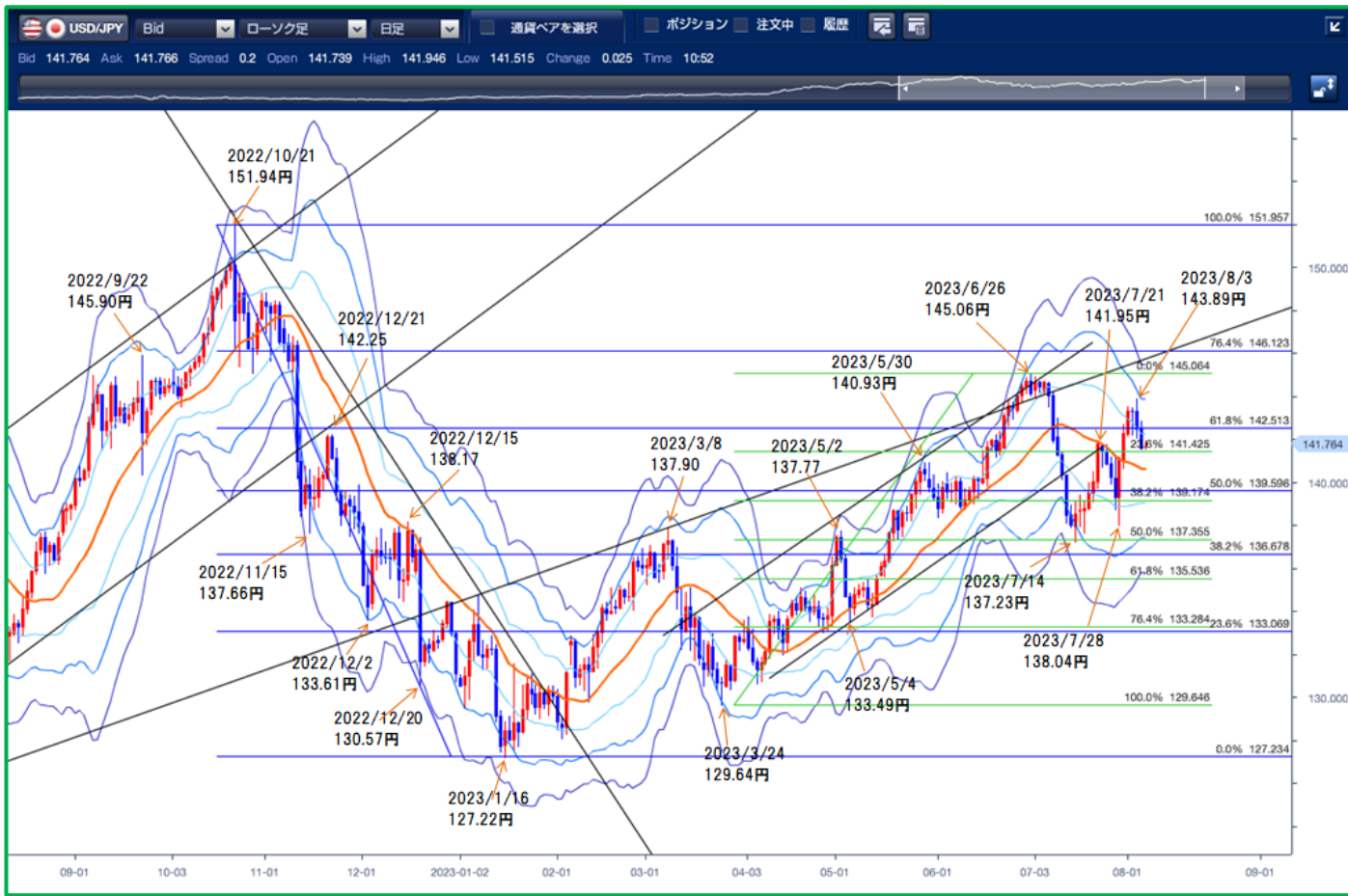
【2023/7/31~8/4】

8月第1週のドル円は141.06円から始まり、前週末の日銀YCC修正後、臨時国債買い入れにより円安の流れが継続し、143円台半ばまで上昇しました。その後、8/2に大手格付け会社フィッチ・レーティングスが米国債を格下げしたことが伝わると、ドル売りが加速し、142.23円まで下落しました。

その後、一時143.89円まで値を戻しましたが、米7月雇用統計において、7月平均時給は前月比(予想0.3% 結果0.4%)、前年同月比(予想4.2% 結果4.4%)ともに市場予想を上回ったものの、7月非農業部門雇用者数変化(予想20.0万人 結果18.7万人)が予想を下回る弱い結果だったことでドル売りが優勢となり、大台の142円を割り込み、141.55円まで急落しました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が下向きで、下落を示唆しています。
 週足ボリンジャーバンドは、中心線が上向きとなっており、上昇を示唆しています。
 以上のことから、8/7～8/11の週間予想レンジは以下の通りです。

◆予想レンジ 139.16円～143.00円

注目レート		テクニカル
上値②	143.00	・大台 ・7/10高値
上値①	142.49	・2022/10/21高値151.94から1/16安値127.22の フィボナッチ61.8%戻し(フィボナッチ:青)
下値①	140.64	・ボリンジャーバンド日足 中心線
下値②	139.16	・3/24安値129.64から6/30高値145.061の フィボナッチ38.2%戻し(フィボナッチ:緑)

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。